

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 1 四

(封筒の書き方を理解して書くことができるかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

新聞記事の中から宛先の情報を正しく読み取り、封筒の宛名の書き方に従って、正しい内容を楷書で書く必要があります。ファックス番号やメールアドレスまで書いてしまったり、氏名と住所の位置を反対にしまったり、氏名と住所の字の大きさがほとんど変わらなかったりする誤答が多かったと考えられます。

その要因として、手紙を受け取る人に対して失礼のないように意識して書くことや、氏名を封筒の中心に、住所より大きな字で書くといった、手紙や葉書の宛名の書き方が身に付いていないことが考えられます。その背景には、手書きで手紙を出す経験の少なさや、手紙本文は書いたことがあっても、パソコンソフトの利用の増加などにより、自ら文字の配置や大きさについて配慮しながら宛名を書くことがほとんどないといった、子どもの生活の実態が考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

普段の国語の授業や学級活動・総合的な学習の時間などで、職場体験のお礼状を書いたり、小学校の担任に近況報告をしたりする活動を取り入れています。ただし、それらは教科書などの見本を見ながら形式に沿って書くことが多く、宛名については教師側でまとめて印刷するなど、生徒自身が宛名を書く活動はあまり行っていません。また、文字や文章を自分で書く場合でも、自分の記録・メモ用や、学習カードへの記入などのために書くことがほとんどです。

このようなことから、生徒にとって、文字は「自分や相手を読むことさえできればよい」「自分の考えや意図が伝わりさえすればよい」ものであるという意識が強くなっていると考えられます。その分、「文字の丁寧さや字形が整っているかどうかを読み手に与える印象」や、「言葉の使い方や文字の書き方に他者への配慮や敬意を込める」という点に対する意識は希薄になっています。これまでも行ってきた「手紙を書く言語活動」においても、「封書の宛名書きの活動」を取り入れることに加え、その形式のみについて指導するのではなく、そこに受け取る相手への配慮や敬意が込められていることや、日本の伝統的な言語文化である「手書き文字による手紙」が社会や対人関係の中で果たす役割といった点についても触れながら、活動を展開していくことが必要です。さらに日常生活の場面で行う「呼びかけポスターの作成」や「連絡黒板への記入」など、手書きの文字が用いられる活動においても、その字形や丁寧さに加え、全体の中での文字の大きさや配置のバランスなどにも配慮しながら書くといった点について指導したり、生徒に意識付けをしたりしていくことが大切です。

(正答例)

100-6543

東京都千代田区中央三

全国中学生新聞「声の広場」係 御中

原稿在中

(「声の広場」にある投稿先)

〒100-6543 東京都千代田区中央3

全国中学生新聞「声の広場」係

FAX 000-123-xxxx

メール zenkoku@xxx.xx.xx

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。【全国中学生新聞】に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。

なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」でなく「御中」と書くこと。

1 調査問題 2

(相手に分かりやすく伝わる表現について理解しているかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

話し合いでの発言について説明したものとして、適切な答えを選択する問題です。全国とほぼ同程度の正答率で、力はおおむね定着していますが、更なる向上を望めると考えられます。西野さんの「校内に点在している」という発言について、倉田さんが「美術室や体育館など校内のあちこちにある」と具体的に言い換えて確認しながら、自分の考えを述べていることを捉えられていない生徒が見られました。特に、倉田さんの発言を「話し合いを通して導かれた結論」として捉える生徒が多く、その理由として、具体的な言い換えと結論の違いを明確に認識できていないことが考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

話し合いをする際は、相手の発言が、全体において、どのような意味をもっているのか、その役割について吟味することが大切です。そして、相手の意図を捉え、その上で自らの考えを発言することによって、より建設的な話し合いが実現します。そのためには、まず、日常生活から相手の話を最後までしっかりと聞く姿勢を習慣化することが必要です。併せて授業では、目的に応じた発言の仕方を意識できるようにすることが有効です。

今回のように、これまでの発言を具体的に言い換えながら話すことは、話し合いの話題や方向性について、全員で共有したり、自らの理解を確実にしたりすることにつながります。また、様々な考えを出し合いながら話すことは、話し合いを進展することや考えを広げることにつながります。そして、要旨をまとめながら結論を述べたり、議論の要点を確認しながら話したりすることは、発言の内容を整理して話し合いを焦点化することにつながります。

右図にある選択肢2～4は、本設問の場合は誤答となりますが、話し合いの目的や場面によってはこのような発言をするケースもあります。話し合いの途中で、目指している到達点に向けて留意すべき点はどのようなことなのか、取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかなど、「目的に応じた発言の仕方を意識しながら話し合いに取り組む場」を、授業において意図的に設定することが効果的であると考えられます。また、自らの考えを伝えるためには、話す速度や声量、言葉の調子や間のとり方を意識することも重要になります。いずれも、経験により獲得できる部分が多くありますので、話し合い活動を積極的に位置付けることが大切です。

山下さんも気になっていたのですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん

西野さん

山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりだと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていらないことがあります。

A

- 二 場面③の——線部「賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。」という倉田さんの発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 場面③における西野さんの発言の一部を具体的に言い換えて確認しながら、自分の考えを示している。
 - 2 場面③における西野さんの発言の一部を取り上げ、様々な考えを出し合うように周囲に促している。
 - 3 場面③における西野さんの発言の要旨をまとめながら、話し合いを通して導かれた結論を述べている。
 - 4 場面③における西野さんの発言と他の人の発言との相違点を示し、議論の要点を確認している。